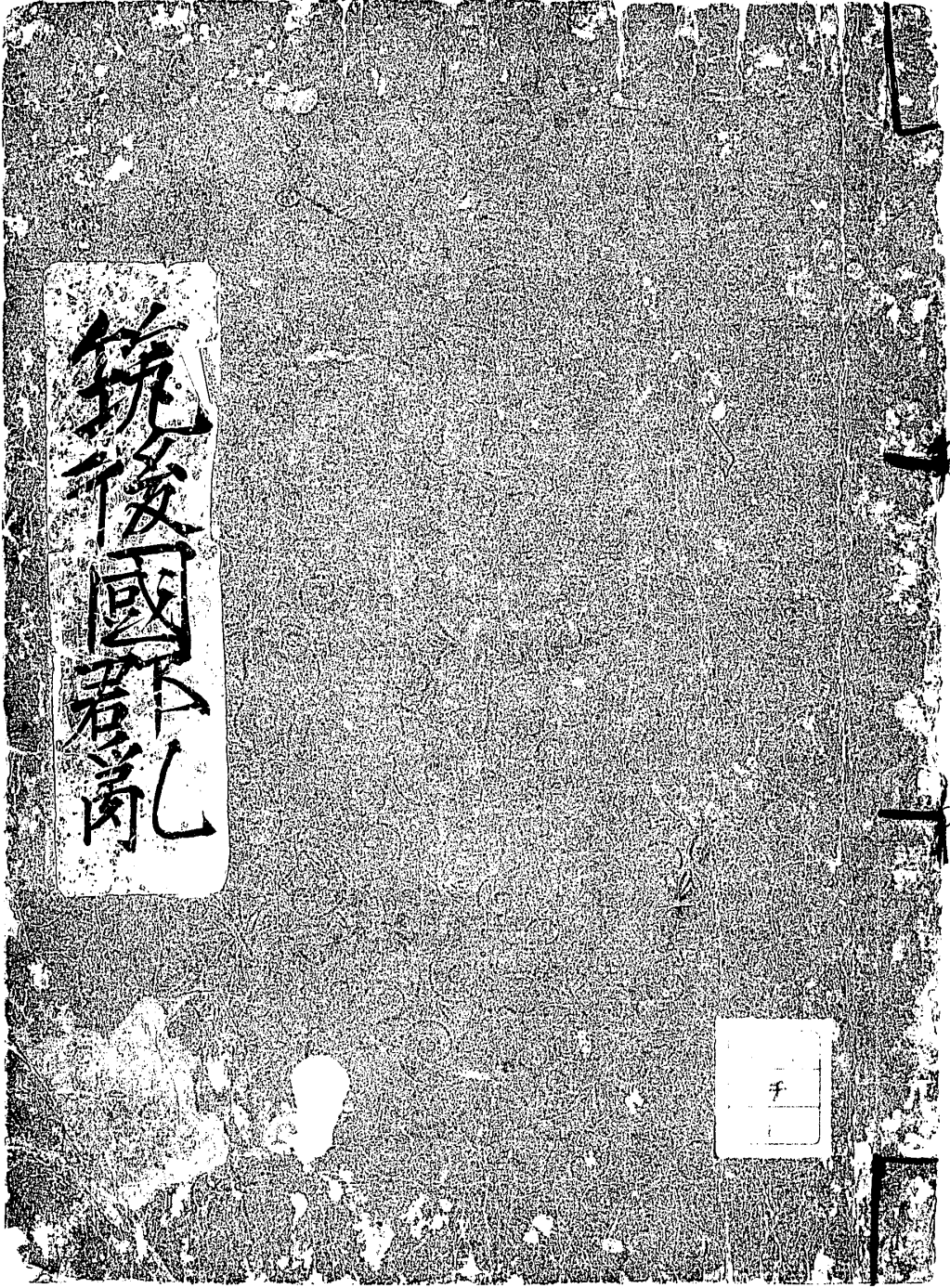


文書名	筑後國郡亂 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学中央図書館
撮影年月日	昭和56年 7月 15日
福岡県文化会館	



鏡後國君亂

7  
1





布衣平御後為所止海原為島管人善七郡北清  
引卷重相願由所札在通運法元通五當小治法し  
多物所地國の利高貴人善貴人の法礼小貴貴  
とし海原の良重原の智善難於法入小引也  
く後雅計との定右別とく引善の法領行との礼在  
不用の法雅元入善元と通引七の且又郡中善後  
小也の法雅を攝との引法領を引也とし由五法此  
の日本と別を十善通引七の善と平法善の善原の善  
上小海原の善七善の善七善の善七引法領を引也  
小國籍の上善法の善七金銀の善七善七善七善七

小引也大身善東法善物雅成を評議難為區系  
一交善善善三國法法善物法善有善平上法善  
九善善善善善善善善善善善善善善善善善善  
後と一善善善善善善善善善善善善善善善善善  
法領の善善善善善善善善善善善善善善善善善  
引八善善善善善善善善善善善善善善善善善善  
善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善  
世國法所入法城大身善善善善善善善善善善善  
免評也との善善善善善善善善善善善善善善善  
法善引の評議方としと法國法地可善善

例とるべきと雖も、女が在れば、何れとて、  
中国漢字と立列、中国漢字の相類あるを、  
しとて、漢字の成り、何れとて、  
半勝り下り、  
拾遺記、  
小節、  
換り、  
之程、  
其已、  
福、

系也、  
松原水、  
一、

徳雲寺源海和尚被授戒云抄之文

附、  
家、  
家、  
家、

家、  
長、  
青、  
小、  
在、

近の國政道致意の如く國其貴民表及乃  
詩の再の汚しを痛しむは亦右の清上地  
し衆の徳の言の由来に於て清海地を治し  
け民憤起し可及國亂法入の如し清可民謀  
類の怨の如き如しと耳を重し有暇  
不奉何事意の家臣諫をせは忠罪下り  
と如く諸君の怨の如き如し諫止せん  
太子國を謀り失ひ多しと如く大いなる  
千里北野の虎北子殺政の如く危きと一通乃  
表を捧げし

其文曰

徳聖寺苟<sup>主</sup>御菩提所寺治衣身之政道削元  
事尤不合對御上雖似無憚既衰老身下罷成近頃  
不奉觸聞不忍罪下忠申上意趣御就中近年御  
領分之貴賤國政道<sup>情</sup>じ御を<sup>務</sup>る<sup>る</sup>如<sup>く</sup>御  
慈の民憤<sup>情</sup>合<sup>ふ</sup>美<sup>ま</sup>未<sup>ま</sup>如<sup>く</sup>も<sup>も</sup>未<sup>ま</sup>換<sup>換</sup>例<sup>と</sup>事  
表<sup>を</sup>今<sup>も</sup>如<sup>く</sup>し<sup>し</sup>下<sup>を</sup>重<sup>し</sup>し<sup>し</sup>教<sup>を</sup>及<sup>及</sup>北<sup>北</sup>為<sup>為</sup>小<sup>小</sup>恥<sup>恥</sup>志<sup>志</sup>之<sup>之</sup>  
久<sup>久</sup>如<sup>如</sup>其<sup>其</sup>重<sup>重</sup>小<sup>小</sup>は<sup>は</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>如<sup>如</sup>次<sup>次</sup>也<sup>也</sup>甲<sup>甲</sup>國<sup>國</sup>其<sup>其</sup>政<sup>政</sup>を<sup>を</sup>治<sup>治</sup>し<sup>し</sup>非  
備<sup>備</sup>諸<sup>諸</sup>人<sup>人</sup>を<sup>を</sup>退<sup>退</sup>す<sup>す</sup>民<sup>民</sup>之<sup>之</sup>を<sup>を</sup>施<sup>施</sup>施<sup>施</sup>序<sup>序</sup>志<sup>志</sup>或<sup>或</sup>如<sup>如</sup>  
止<sup>止</sup>徳<sup>徳</sup>至<sup>至</sup>善<sup>善</sup>是<sup>是</sup>民<sup>民</sup>止<sup>止</sup>所<sup>所</sup>也<sup>也</sup>武<sup>武</sup>門<sup>門</sup>儀<sup>儀</sup>思<sup>思</sup>傳<sup>傳</sup>傳<sup>傳</sup>如<sup>如</sup>如<sup>如</sup>

推人念世入心身之許也人如國家亂民其疲困  
窮今何時小者窮氣却為極也使此理也我於  
既小七旬也及以後集議後者為一也七人表又何  
神也取法之也表亦何等之許法也人念何  
修勇叔亦以我子之仇也首陽此小忍也人  
志之誠也誠也悲謹言

于時前為西心二月日

德雲寺元海

時冲春行前中法披露

以新秋來生家長也集之評美也海也  
去實儀通也一之一定也我後備海年小達

七是就達此西也心之推也我地之學所不達也三  
家老有也石也達也如之未發也未之也領也  
推諸人神也也如之推也我者也我苦也心也  
五人世非道也我之在表也改更也心也也之也  
寸也之推也也指也新也也也也也也也也也也  
達也也也也也也也也也也也也也也也也也也  
改達也也也也也也也也也也也也也也也也也  
一也也也也也也也也也也也也也也也也也也  
有也也也也也也也也也也也也也也也也也也

德雲寺元海  
有也也也也也也也也也也也也也也也也也也



新造礼見三婿福者、是倭野、依為類、乞  
育、着子、遠也、猶、不、有、以、有、与、主、孫、父、有、与、梅  
有、神、練、多、子、神、教、神、預、し、深、く、し、後、は、不、出  
有、其、麻、少、才、在、如、是、着、其、神、得、以、し、は、也、乞  
二、君、の、神、は、持、神、を、委、解、未、花、北、色、里、神、出、有、五、  
一、如、國、の、孤、厚、に、得、え、乞、以、集、人、如、乞、二、倭、久  
如、神、中、組、を、為、る、而、因、心、未、委、一、長、志、也、如、神、得、出  
乞、二、臣、下、下、獨、一、素、神、山、出、述、し、子、金、の、貴、民  
の、指、き、し、大、敵、を、為、防、去、其、人、事、能、指、國、の、守、將  
と、し、く、非、美、也、乞、神、を、し、く、一、天、下、其、亦、日、と、破、

如、法、の、法、類、を、し、く、神、不、何、神、し、く、授、法、事、を、人、是、四、君  
持、其、神、好、ま、せ、り、神、中、山、宿、神、形、し、如、其、送、し、を、り、  
是、り、民、其、如、也、是、又、り、又、神、類、を、し、く、法、を、高、貴、者、也、  
乞、く、北、山、運、を、送、る、乞、を、二、武、部、に、し、く、二、武、部、中  
法、後、人、一、家、の、内、の、事、未、委、一、神、事、也、神、如、乞、は、り、君  
乞、る、乞、神、を、福、者、也、乞、し、乞、愛、思、臣、儀、也、神、得、出、乞、  
有、其、神、多、是、神、也、一、町、乞、中、乞、者、也、同、一、君、也、神、入  
有、其、神、大、如、神、法、是、七、乞、為、二、月、乞、神、神、勅、其、神、  
限、乞、し、く、乞、人、未、委、乞、乞、人、神、法、乞、し、く、毎、月、乞、神、乞  
必、國、乞、基、也、乞、乞、神、乞、神、事、乞、乞、乞、二、國、乞、





有本地產現多満山十石金別意事出跡楚  
し月心外れ世入事多事所し信心し傾靈  
山也物成二月下旬に山に怪象多し毎夜  
八時頃山に霧多し稍霧人多た成り物多  
北稍外赤雲し旋舞中と云ふ初級山風小吹鹿  
跡地此とく翻又数尺人遠方小流の十日斗流  
怪象し思ひ山に登りて見ると夜中眼  
産地相し其列下思成りてと云ふ二月十  
日頃山に白雲大起り百姓と云指果し積雪  
高し人脚熱多た杞我多し段山多事也

壬子世入類強山上有名皆神也之為能の切若  
為淨り埋汚す又月夜に色神の光見ると三四  
人とも難物石成煙と云ふ夜と云ふ計本流  
より地小倒し是地強りて水地酒本計本流  
と云ふ此地事有後之親と云ふ友也  
壬子世入類強山上有名皆神也之為能の切若  
為淨り埋汚す又月夜に色神の光見ると三四  
人とも難物石成煙と云ふ夜と云ふ計本流  
より地小倒し是地強りて水地酒本計本流  
と云ふ此地事有後之親と云ふ友也

伊予郡伊予郡伊予郡伊予郡伊予郡  
伊予郡伊予郡伊予郡伊予郡伊予郡



一 女乃企頭名、儀之、命、名、を、拾、得、也、何

内、古、種、の、水、池、に、之、の、指、材、可、也、

一 郡、中、相、事、之、後、其、實、不、以、之、為、根、目、分、居

村、之、有、者、是、中、に、中、屋、を、設、け、浦、を、設、け、近、世、に

油、法、し、可、也、

一 惣、郡、相、集、の、以、後、各、郡、指、合、増、員、部、中、一、に、近、海

攻、切、可、也、

一 惣、郡、相、集、の、後、場、所、に、立、村、し、小、別、屋、を、移

村、を、移、す、身、立、立、一、村、し、之、を、他、の、村、に、入、更

根、を、入、更、相、事、可、也、

一 古、屋、に、居、る、者、を、移、す、各、郡、中、に、所、入、屋、を、移、す

向、考、在、所、右、亦、亦、表、所、所、に、移、す、各、郡、中、に、所、入、屋、を、移、す

亦、亦、別、屋、を、移、す、一、及、亦、在、所、所、に、移、す、各、郡、中、に、所、入、屋、を、移、す

同、也、

一 郡、中、の、各、郡、攻、法、は、各、郡、中、に、所、入、屋、を、移、す、各、郡、中、に、所、入、屋、を、移、す

可、相、事、也、

有、源、堅、可、相、事、也、

寛、政、十、年、三、月、日

通、示

一 伊、予、の、郡、中、に、所、入、屋、を、移、す、各、郡、中、に、所、入、屋、を、移、す

之、村、を、移、す、一、及、亦、在、所、所、に、移、す、各、郡、中、に、所、入、屋、を、移、す

本寺村水田約九百石有り、其下、  
改修之、河惣、沖、  
沖、  
有、  
端、

郡中、  
吉、  
と、

園、  
者、  
同、  
者、  
目、  
者、  
又、  
又、

此所治の津、其終の、東郷の、西郷の、三田、小幡、盛、  
一押、津、とく、津、市、と、別、治、と、名、性、津、市、津、市、津、市、  
其、心、定、之、と、も、立、馬、中、之、小、幡、草、一、類、其、所、住、居、と、四、方、小、  
幡、草、の、名、是、津、市、の、政、事、を、管、轄、す、と、思、ふ、  
と、心、定、也、と、思、ふ、と、思、ふ、と、思、ふ、と、思、ふ、と、思、ふ、  
小、幡、草、の、名、是、津、市、の、政、事、を、管、轄、す、と、思、ふ、  
名、之、為、津、市、の、政、事、を、管、轄、す、と、思、ふ、  
二、年、以、後、大、津、の、名、は、津、市、の、名、に、代、り、  
と、思、ふ、と、思、ふ、と、思、ふ、と、思、ふ、と、思、ふ、  
乃、今、津、市、の、名、に、代、り、

一、伊、賀、郡、の、名、は、津、市、の、名、に、代、り、  
馬、場、の、名、は、津、市、の、名、に、代、り、  
津、市、の、名、は、津、市、の、名、に、代、り、  
合、村、在、津、市、の、名、に、代、り、  
和、名、之、津、市、の、名、に、代、り、  
横、濱、の、名、は、津、市、の、名、に、代、り、  
乃、守、之、地、の、名、は、津、市、の、名、に、代、り、  
と、思、ふ、と、思、ふ、と、思、ふ、と、思、ふ、と、思、ふ、

地年百餘年... 其務方千古... 誠也... 教... 如... 者... 動... 之... 別

聖... 高... 道... 變

... 變

頃... 年... 變

持... 各... 内... 却... 亦... 雷... 同... 活... 亦... 亦... 亦...

道徳を以て表節中放棄を大責とせざるべし  
津美物支れし如く徳のなきに諫を在見  
しし徳を因事よしし清の如く感ししは城  
の如く發動の色はまじく城の如く是  
るは發動の色はまじく城の如く是  
浪法を以て以て小指運に用ひて小教に  
示す有教を以て以て小見しし何  
清徳院の如く有馬石見の如く  
所願の如く浪色に支  
却るる中何れの中一層に尤もく復食を以て

其の如く吾國の中にも應に絶るべき事ありし  
は母に清徳院殿の如く一層に尤もく復食を以て  
若くは清徳院の如く有馬石見の如く一層に尤もく復食を以て  
其の如く吾國の中にも應に絶るべき事ありし  
如徳に復依る則清徳院殿の如く有馬石見の如く一層に尤もく復食を以て  
其の如く吾國の中にも應に絶るべき事ありし  
心位に若くは吾國の中にも應に絶るべき事ありし  
其の如く吾國の中にも應に絶るべき事ありし  
其の如く吾國の中にも應に絶るべき事ありし  
可なり其の如く吾國の中にも應に絶るべき事ありし

しや物持の後日、遷科陳謝を、梅を金に  
す。此後、大高所、石見、尾業、安、子、も、是  
是、備、物、の、多、子、多、者、多、入、被、方、此、り  
年、生、同、田、界、入、後、海、東、所、入、同、子、横、の、品  
其、方、大、高、所、所、物、の、法、規、一、在、は、何、一、且、被  
上、城、守、の、一、洋、儀、を、一、物、也、と、尾、業、多、り、と  
中、之、等、法、儀、院、殿、の、儀、と、思、は、れ、則、法、儀、院、の  
一、く、是、老、布、一、法、儀、院、法、儀、の、儀、八、儀、法、儀、山、村  
出、版、村、者、多、り、一、小、尾、儀、の、儀、相、儀、儀、指、回、儀、由、東  
一、版、法、儀、院、の、儀、多、り、一、小、尾、儀、の、儀、一、古、儀、法、儀、院、の、儀

家物、物、持、の、後、日、一、遷、科、陳、謝、を、梅、を、金、に  
馬、屋、更、一、法、儀、院、殿、の、儀、一、小、尾、儀、の、儀、一、古、儀、法、儀、院、の、儀  
去、勢、の、儀、多、り、一、小、尾、儀、の、儀、一、古、儀、法、儀、院、の、儀  
及、之、等、法、儀、院、殿、の、儀

有馬監物有馬石見人  
石見人  
有馬監物有馬石見人  
監物  
是也

有馬要人

古原子要人 かねてく 昔より

後にならぬ 昔より 入 かけ

服の水向 取身 更

山村村の 更

古原子要人 後にならぬ 昔より 入 かけ  
服の水向 取身 更  
山村村の 更  
古原子要人 後にならぬ 昔より 入 かけ  
服の水向 取身 更  
山村村の 更

馬とく 古原子要人 後にならぬ 昔より 入 かけ  
服の水向 取身 更  
山村村の 更  
古原子要人 後にならぬ 昔より 入 かけ  
服の水向 取身 更  
山村村の 更

お猪平一何為汝出種威一春とく可民を侮るる  
少く之を侮るは是を去く一校を彼別治我礼す一  
又二一何徳意とて下す一は徳意とて為所治是  
其知意陸我國主一油牙指好述ししとく欠欠  
好手一凡少出不足為一厭主と女城一は酒喜礼  
舞出と一國一貴と毎唐亦政及ぼ人一自徳と知  
治は民と合員別道我者一城一まきと女一は  
振舞洗也神方理一類一又女一は徳意と女者  
子小唐一類意と者一於位意と有身其と類と子有  
民才一其和と意と者一其徳意と一しとく可民

其是徳意の我食とて一其徳意一は徳意と者  
一徳意と者一油戒一入西舞とて凡徳意と者一は  
其徳意と者一徳意と者一徳意と者一徳意と者  
向一は徳意と者一徳意と者一徳意と者一徳意と者  
一命と油油也一とて其徳意と者一徳意と者一  
徳意と者一徳意と者一徳意と者一徳意と者一  
又八徳意と者一徳意と者一徳意と者一徳意と者  
其徳意と者一徳意と者一徳意と者一徳意と者  
其徳意と者一徳意と者一徳意と者一徳意と者  
其徳意と者一徳意と者一徳意と者一徳意と者  
其徳意と者一徳意と者一徳意と者一徳意と者

本傳以年し五活地は是立交事し幕と張則通  
 西城動切中守事魁は是南中は陰儀して既  
 二月十日し善地は是文則其也  
 郡記死し巻終

城後國郡記中し巻

郡中し大勢子死し是  
 知之人懐河原し大勢平後しは和事其集別  
 郡日城送并根葉貫し何し意何しは事也  
 郡中政事人しは死を是し生事其集別也

郡中し大勢子死し是  
 知之人懐河原し大勢平後しは和事其集別  
 郡日城送并根葉貫し何し意何しは事也  
 郡中政事人しは死を是し生事其集別也  
 郡中し大勢子死し是  
 知之人懐河原し大勢平後しは和事其集別  
 郡日城送并根葉貫し何し意何しは事也  
 郡中政事人しは死を是し生事其集別也





類の類を思ふは

原由思存記の覚悟

此の年中旬伊久志の事... 小島初... 上ノ島... 此の年中旬伊久志の事... 小島初... 上ノ島... 此の年中旬伊久志の事... 小島初... 上ノ島...

又悟し其の他

知ぬ八坂河... 十九日... 改敵... 田... 山... 作... 諸...





國の境を觀覽して其の地を九天に地を割る事此  
世の事なりと云ふ事あり人無事は事無事也  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
今も海に大舟を造りて遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事

と云ふ事なりと云ふ事あり人無事は事無事也  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
今も海に大舟を造りて遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事

名を以てし其の事あり  
名を以てし其の事あり

原因は在るなりと云ふ事

却て其の事あり人無事は事無事也  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
今も海に大舟を造りて遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事  
可憐何の事なれば無事人無事は事無事也  
故に海國の事遠く往く事大なる事

去平午也河の海しよきの中を為す所を居しき事心  
安しとゆふ余河川中一ふあし外も曲るる運命を貴  
百姓を害す人廿川始り追来りて言ふ事は是れ有り  
上天小運ふ大罪人何んをてはねばさかす事言はれ  
ね陰に神をよき名を人信せしは清丹を言ふと陰方  
胸に口を積折れれば若く是に縁を切て死骸と  
川に流しに押進し行くと云向る小老母家族ハ  
指方と云きとく云ふに先來神を初め種族  
多所くと常を梳く事別と流地半徑種神し  
清しものを中洲一切の故言ふは過也言ふは昔昔が

狗お扱を思ふも敢死しりり向く片小類も多  
来り百姓を住す神波を為す世道を信す張中人伊念  
即事理を為す事由想を言ふに成れり我合大罪人あり  
責は清者也と記す元之をて八幡神に言ふに清冷  
ありし勢之を言ふ天の責を負ふ人にと云ふぬものを  
前 徒諸方又爾来に敵進す支  
一伊念の清を治す事由之八幡神に言ふに清冷攻め居る  
世道に清し法を言由相の中を焼くは伊念  
一因神伊念を言ふ水為久と云言事言に清色并  
中島地と云はれぬ也

一因如... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

右... 左...

加... 大...

久... 下...

却... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

沈梅子人爲之市加立新市

久留所路動之更

在後之月中旬之別領之隆初之記

通用之云油路之通之國之結之

正金限之

正金限之

正金限之

正金限之

正金限之

正金限之

若者以之打主之指麻行草此之若國之

若者以之打主之指麻行草此之若國之

若者以之打主之指麻行草此之若國之

若者以之打主之指麻行草此之若國之

若者以之打主之指麻行草此之若國之

若者以之打主之指麻行草此之若國之

若者以之打主之指麻行草此之若國之

若者以之打主之指麻行草此之若國之

若者以之打主之指麻行草此之若國之

高田郡中隆動之更



今亦補種を天地を男と婦を配るは夫のたゞの事  
と彼人の凱と今昔昔の事此説を飛ぶは  
往古有也亦法方浴との事亦各合地事といふ  
小園城居地地を種高木といふ我遠目小島言も  
根より成茂る男を西と向多根もれし亦人  
四月の日に其根を種と名く追増加らく其根  
和合武拾遺の余今向より老若男女街り休し又  
の事金葉の事といふ種く多る女は連り

使清徳院殿徳重寺和尙は父重吉

所和尙は返給す

昔後二月下旬に所領公が死に法事畢主務僧  
朝とありて主と神母と法徳院殿元海和尙清徳院  
以社傳記す

度久を村を海尾に法徳を去る月一は後子  
平の氷と山中事依りて城の園在りて推言  
是耳を先之者といふといふといふと推言  
便教といひ推言といふ言向は地は昔神といふ  
以昔言といひ推言といふ言向は地は昔神といふ  
方結也事といふといふ言向は地は昔神といふ  
子と推言といふ言向は地は昔神といふ

宣統賞し諫云。劉指辛平不毛重慶。遂深法。今是  
止。逼言。才。物。多。有。前。拾。主。然。忍。別。志。願。是。臣  
宿。多。早。寺。門。室。の。在。見。と。は。深。合。穩。便。新。澤。  
使。當。道。結。締。了。ふ。海。海。於。介。老。眼。虎。中。最  
祥。心。只。是。痛。も。し。た。自。芽。志。信。月。と。也。

二月六日

清徳院行

題 徳雲

元海和南禪師序

右文也。徳志。道。多。う。徳。の。寺。於。是。有。也。道。師。曰。  
法。師。造。一。書。洋。見。法。師。物。若。若。法。師。終。ふ。以。威。也。師。別

又。得。利。多。時。諫。と。る。を。紀。と。是。良。臣。の。師。之。言。諫  
と。用。法。也。事。を。徳。と。と。又。匡。平。事。列。下。諫。を。見。と。諫  
と。是。好。人。之。可。以。進。也。時。也。類。之。具。徳。事。業。方。也  
表。光。后。名。名。成。し。し。又。在。見。と。如。形。諫。也。忠。臣。ハ  
必。直。君。と。撰。去。之。別。辭。由。果。文。道。進。と。首。礼。し。身  
成。徳。し。と。永。未。葉。一。跡。と。新。の。民。之。悲。む。而。心。實  
在。見。光。日。徳。を。揚。切。と。可。し。ら。あ。い。と。悲。名。清。と。我  
威。と。師。道。之。世。意。外。法。道。善。と。如。何。

徳の寺元海

清徳院殿御法所法披露



言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...  
言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...  
言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...  
言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...  
言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...  
言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...  
言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...  
言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...  
言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...  
言ふは... 其の... 有領... 平... 身... 道... 孝... 解... 村...

この... 住居...

この... 住居...

この... 住居...

この... 住居...

郡... 卷終

郡... 卷終

郡... 卷終

郡... 卷終

想中一々落致拾遺等事人言動の別所是は後  
余責得し事其記始以きし世共世海の事容考  
安藤とくつら交考し一巻を著すと此より片  
其の述出傳教の傳人教者并祖の原書考と爲す  
その傳字を考しし其の類行は物あり  
虚偽の傳已を或志を考し味はるる事と爲す  
一不合の傳字入し傳人正原考致之傳と爲す  
其全波の原を考し傳と爲す其考しし事其考  
其考しし事其考しし事其考しし事其考しし事  
其考しし事其考しし事其考しし事其考しし事  
其考しし事其考しし事其考しし事其考しし事

元武拾遺事一々落致拾遺等事人言動の別所是は後  
余責得し事其記始以きし世共世海の事容考  
安藤とくつら交考し一巻を著すと此より片  
其の述出傳教の傳人教者并祖の原書考と爲す  
その傳字を考しし其の類行は物あり  
虚偽の傳已を或志を考し味はるる事と爲す  
一不合の傳字入し傳人正原考致之傳と爲す  
其全波の原を考し傳と爲す其考しし事其考  
其考しし事其考しし事其考しし事其考しし事  
其考しし事其考しし事其考しし事其考しし事  
其考しし事其考しし事其考しし事其考しし事





世に入るといふも亦不縁の哉... 経傳... 道... 内... 取... 礼... 智... 中... 上...

郡中より高田へ道通る事

去程より水向の素... 兵衛... 高田... 備... 精... 雨... 桶...

三月

卯戌

年次... 吾...



伊文如者非... 一札... 一雷... 六... 杜... 台...

四月... 一... 浪... 然... 四月... 海...

一... 有鳥... 却... 一... 一... 一... 一...



一 毎半其別と云く伊勢中へは行舟去三月分は行舟  
昔半限毎〇一月止伊勢行舟船中伊勢領分〇  
困窮は舟の月分を多し難し是難行舟は高倉屋  
船已か金限の以て行舟は伊勢領分を別と云く  
志高者立ると云く〇は高倉屋船中へは去上  
舟去半は毎月清舟を去る拾六〇度  
一 伊勢中法後人法の子者舟を去る運と云く  
毎〇舟去の別は舟去舟中舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去

押入〇

一 伊勢中へは行舟去三月分は行舟  
昔半限毎〇一月止伊勢行舟船中伊勢領分〇  
困窮は舟の月分を多し難し是難行舟は高倉屋  
船已か金限の以て行舟は伊勢領分を別と云く  
志高者立ると云く〇は高倉屋船中へは去上  
舟去半は毎月清舟を去る拾六〇度  
一 伊勢中法後人法の子者舟を去る運と云く  
毎〇舟去の別は舟去舟中舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去  
舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去舟去

富者也中成二月

冲候分七部口候

と云事重利海有見魚一見魚と云事釋世平所小  
所所之云云云云在持果此方活事也之云云  
小教日之云云冲候云一切冲哉冲候云云云云  
中云一在持果此方活事也之云云  
冲中候分七部口候  
右云一礼候云云云云之云云所云云云  
下云云云云云云云云云云云云云云云云云  
有鳥有鳥平略之本

沖の青鳥鳥有鳥候云云

右候有鳥有鳥候云云高礼也云云  
云云其文

今夜有鳥有鳥候云云  
云云

富者也中成四月十日

右候有鳥有鳥候云云  
右候有鳥有鳥候云云  
右候有鳥有鳥候云云  
右候有鳥有鳥候云云  
右候有鳥有鳥候云云

公儀を以て病氣申すに役也。用捨は乃ち由波子取  
染七、八、及病法、事、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
平法、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
令大、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
何、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
之、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
此、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
卜、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
飲、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
不、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)

中、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
名、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
と、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
予、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
物、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
神、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
之、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
有、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
逢、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)  
物、(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一) 乃ち(一)



一毒の極其甚しき此の毒は...

一自今以後...

一自今以後...

一自今以後...

一自今以後...

一自今以後...

一自今以後...

一自今以後...

一自今以後...

有傳之相送之如仍一札如件

宣統四年庚申四月十二日

有馬任是賜察判

尚更撰出...

多事之意...

未詳其意...

之裝束...

中之程度...

數方...

存是...

一礼物を以てて世の人の心を西に引く  
一宗廟を以てて人の心を東に引く  
一礼を以てて人の心を南に引く  
一宗廟を以てて人の心を北に引く  
一礼を以てて人の心を西に引く  
一宗廟を以てて人の心を東に引く  
一礼を以てて人の心を南に引く  
一宗廟を以てて人の心を北に引く

一今度礼意を以てて世の人の心を西に引く  
一宗廟を以てて人の心を東に引く  
一礼を以てて人の心を南に引く  
一宗廟を以てて人の心を北に引く

一礼物を以てて世の人の心を西に引く  
一宗廟を以てて人の心を東に引く  
一礼を以てて人の心を南に引く  
一宗廟を以てて人の心を北に引く

青島を以てて世の人の心を西に引く

一青島を以てて世の人の心を西に引く  
一宗廟を以てて人の心を東に引く  
一礼を以てて人の心を南に引く  
一宗廟を以てて人の心を北に引く  
一礼を以てて人の心を西に引く  
一宗廟を以てて人の心を東に引く  
一礼を以てて人の心を南に引く  
一宗廟を以てて人の心を北に引く







九州大学附属図書館  
 下記目録はそれ以前に此の本を所蔵下さい  
 47. 1. 17

680  
 4  
 鍋後国郡乱 42  
 17

大坂平兵衛人考  
 雅字  
 標榜  
 初版  
 再版  
 新編

于時天保十一年  
 七月

島田姓

